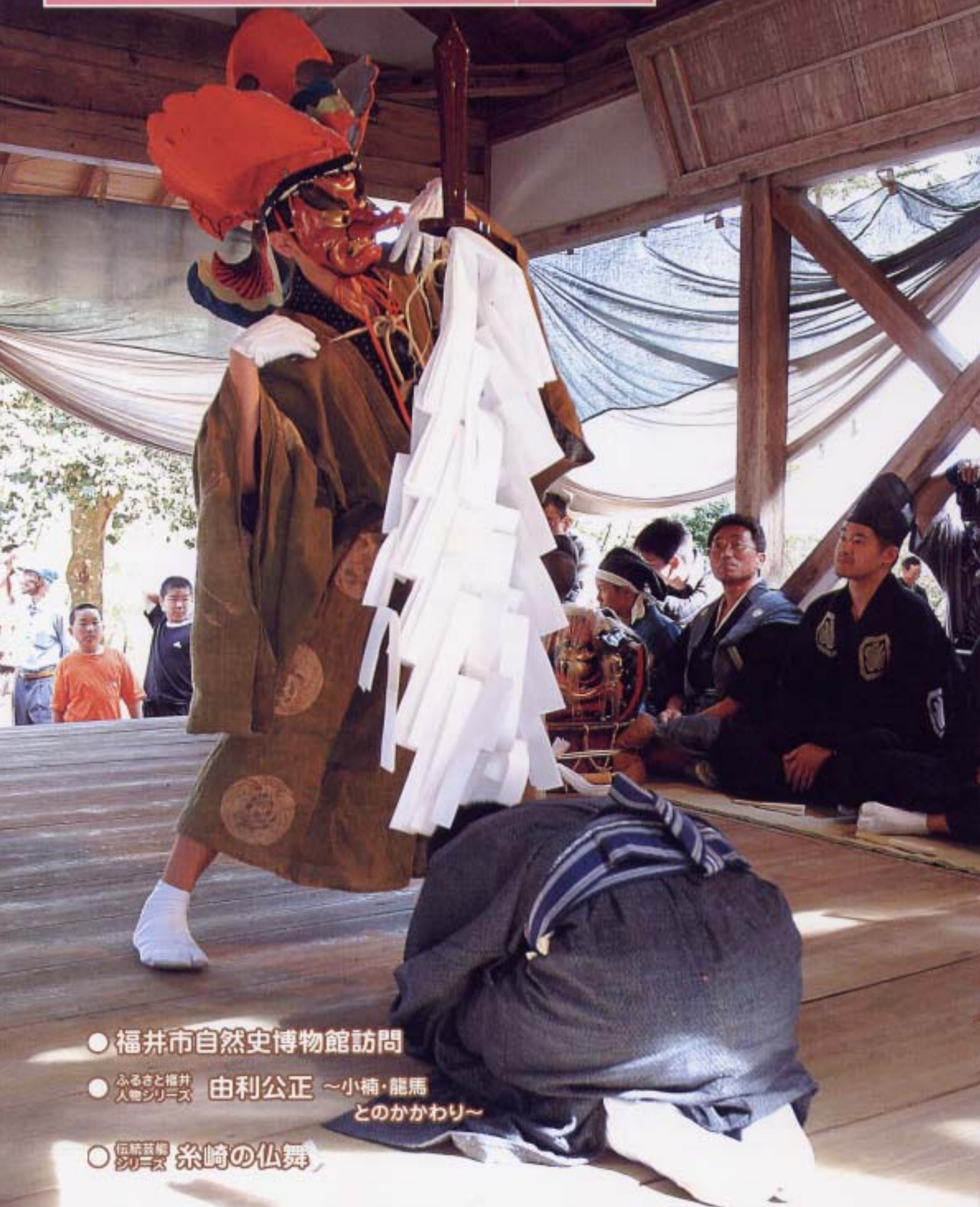


げんでん  
ふれあい **福井**

第22号

2005

SUMMER



● 福井市自然史博物館訪問

● ふるさと福井  
人物シリーズ 由利公正 ~小楠・龍馬  
とのかかわり~

○ 伝統芸能 糸崎の仏舞

# 祭・ふくい2005

10月22日(土)～11月3日(木)

10月22日に開幕する「第20回国民文化祭・ふくい2005」の県実行委員会の第4回総会が5月26日、福井市の県生活学習館で開かれました。オープニングを飾る「総合フェスティバル」など県主催事業の詳細な計画や市町村事業、県民自主企画事業が報告され、全体の事業が決まり、秋の本番に向けて、本格的な取り組みがスタートしました。



「全高総文祭03福井」の開幕を祝って福井市内を行進した福井工業大学附属福井高校マーチングバンド

総合フェスティバルのオープニングパレードは、10月22日午前10時から正午まで、皇太子向妃両陛下をお迎えし、福井市フェニックス通りで行われます。金澤高校吹奏楽部によるウエルカム演奏で幕を開け、華やかなマーチングバンドが先導する中、県内外の39団体が参加。県内の学生や若者を中心に構成する「元氣連」をはじめ多彩な連が演出テーマ「集う歓び、紡ぐ縁」を表現するパレードを繰り広げます。また、見るだけのパレードではなく、様々な立場で参加できる構成とし、パレードコースには3箇所の停止演技ポイントを設け、出演団体のパフォーマンスを披露することになっています。

一方、コース中程には定点演技エリアも設けられ、太鼓などの演奏・演技を展示します。開会式・オープニングフェスティバルは、20年目を迎える国民文化祭の歴史と広がりをお祝いするとともに「深まる心、響きあう絆」をテーマに、同日午後3時からサンatorium福井で開催されます。パレードで、20歳を迎える国民文化祭の歡びを映像で放映します。開会式典には、皇太子向妃両陛下をお迎えし、福井県出身の音楽家による国歌斉唱、福井県を代表する楽器によるBIG M演奏など品位ある、福井県らしい式典を展開します。式典に続いて、交響合唱詩「ふくい物語」と題し、様々な文化が一体となってストーリーを形成する約600人が出演する「県民ミュージカル」を発表します。

## 「集う歓び、紡ぐ縁」パレードで開幕(福井市)

開し、パレードを盛り上げます。



財団シンボルマーク

財団法人げんでんふれあい福井財団は福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的にしています。本誌はこの主旨に従い県民のみならずとの絆を大切にしたい広報誌を目指します。

## CONTENTS/22

- 「第20回国民文化祭ふくい2005」準備本格化 2, 3
- 福井市自然史博物館訪問 4, 5
- ふるさと福井人物シリーズ  
由利公正～小楠・龍馬とのかかわり～(中) 6, 7
- 平成16年度風花随筆文学賞・財団賞 作品紹介 8, 9
- 伝統芸能シリーズ・糸崎の仏舞 10, 11
- シリーズ13 福井の文学碑  
鹽浜碑(日下部太郎・W.E.グリフィス) 12
- 敦賀市立博物館誌上ギャラリー/16  
三祭図(祇園祭礼図) 冷泉為恭筆 13
- 情報ファイル  
(17年度財団助成事業決まる)ほか 14, 15

## FRONT COVER



信濃貴彦神社・久豆弥神社の王の舞  
(敦賀市沓見)

敦賀市沓見に所在する信濃貴彦神社(男宮)と久豆弥神社(女宮)の「お田植祭り」が5月5日、古式豊かに行われました。同神社の能舞台では、それぞれの氏子たちが、伝統の王の舞や獅子舞、田植式を奉納します。表紙の写真は、女宮の王の舞で、髯高面をつけ烏甲をかぶり、腰に刀を差し、緑の素襦・袴姿で登場します。御幣を付けた鉾を持ったまま太鼓の音に合わせて体の向きをゆくりと回して舞い、終り頃、鉾持ちが支える鉾を手に抱くような動きと天を仰ぎ見る仕草で舞を納めます。今年の女宮の主役は中学2年生、男宮は小学6年生が演じていました。

## TOP INTERVIEW

## 福井県教育長 西藤正治氏に聞く

福井県教育長  
西藤正治氏

げます。

本県は、美しく豊かな自然に恵まれ、長い時の流れを経て育まれた香り高い豊かな文化を有し、古代から現代まで脈々と文化を紡いできた輝かしい歴史

Q1 「第20回国民文化祭・ふくい2005」開幕も間近。福井らしい祭典になるよう、所感と決意をお聞かせください。

A、県民の皆様のご協力により、順調に準備を進めており、お礼を申し上げます。

国民文化祭の開催を契機として、本県の歴史や文化、「健康長寿」で「元気な福井」を国内外にアピールするとともに、地域文化を盛り起こし、21世

すべての市町村を会場に67の事業を実施することにしており、伝統文化の継承につながる事業や地域の文化特性を生かした事業、福井県の産業や伝統工芸を紹介する事業が数多く盛り込まれています。更に、新たな劇作曲や創作劇などの発表やボランティアの活躍による手づくりのミニユメント制作等があります。

があります。このような背景を踏まえ、県民総参加で伝統文化を継承、発展させつつ、新たな地域文化の発掘、創造に努め、「元気な福井」をアピールする国民文化祭にしたいと考えています。

オーブニングパレードでは緑で結ばれた人々の出会いを紡ぎ、開会式・オーブニングフェスティバルでは福井に

織り上げていきたいと考えています。オーブニングパレードでは緑で結ばれた人々の出会いを紡ぎ、開会式・オーブニングフェスティバルでは福井に

Q2 大会のコンセプトとして「糸」をアピールしておられますが、このねらいと方策をお聞かせください。

A、福井県は、織物や和紙など「糸」にゆかりのある仕事や産業の伝統があります。「糸」は私たちの歴史や生活に深く組み込まれた文化そのものであり、今回の国民文化祭では「糸」をコンセプトに、産業や文化、人と人、地域と地域、国と国との結びつきを大切にしたいと福井県ならではの文化の祭典を

今後とも、県民の皆様と一丸となつて国民文化祭を盛り上げていきたいと考えていますので、ご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

Q3 大会成功のため、県民の皆さんにメッセージを。

A、国民文化祭を成功させるためには、できるだけ多くの県民の皆様にご参加いただくことが必要です。芸術文化のすばらしさに触れ、感動を分かち合える熱気あふれる祭典を実現し、参加された方々に福井の魅力を十分感じていただくことができるよう全力で準備に取り組んでいます。

集った人々の絆と文化を結び、開会式・グランドフィナーレでは福井で結ばれた絆と次代への夢を織りなすようなものにしていきます。

福のくから

## 第20回 国民文化

平成17(2005)年



## 開会式・オーブニングフェスティバル

## ふくいの歴史を綴る ミュージカル発表

恐竜の時代が始まり、環日本海交流や北前船交易による繁栄を経て、近代、現代に至る福井の歴史を回顧する4幕の構成で、福井の未来への期待感を表現していきます。

フィナーレは、ふくいスペシャルオーケストラのイメージソング「糸」の演奏で始まり、ステージに次々と出演者全員が登場。ふくいティーンズコーラス隊のリードで、ステージの全員で合唱、リボンや布によるパフォーマンスで人々の交流と絆を紡ぐ開会式のフィナーレを飾ります。

開会式・グランドフィナーレは、11月3日午後5時から県立音楽堂で行われます。

荘厳なパイオルガンによる独奏に引き続き、福井を代表する楽団、ハーブと



福岡県麻生知事より国民文化祭旗を引き継ぐ福井県山本副知事＝平成16年11月14日 北九州芸術劇場

マリィンバも加えたコラボレーション演奏でオーブニングを飾ります。開会式では、次期開催県・山口県へ国民文化祭旗を引き継ぎ、グランドフィナーレは、国民文

化祭大使、67事業の参加者やボランティアによるイメージソング「糸」の大会場で幕を閉じます。

このほか県主催事業として「人と組織と文化」「暮らしと精神文化」のシンポジウムが福井市内で開催されます。

県主催の分野別フェスティバルでは、マウズ吹奏楽の演奏▽マーチングバンド、パトントワリングフェスティバル▽オーケストラの演奏▽全国吟詠剣詩舞道祭▽民俗芸能の祭典(国際民俗芸能祭)▽生活文化総合フェスティバル▽産業文化フェスティバルが計画されています。

国民文化祭は11月3日まで13日間、音楽、演劇、文芸、美術など67の分野別事業が県内全市町村を会場に開かれ、その間、約3万3千人が参加し、県内外約80万人の観客が見込まれています。

# 福井市自然史博物館訪問

通称「足羽山の博物館」として、半世紀の歴史をもち、広く福井市民から親しまれている福井市自然史博物館を、新緑碧葉に映える4月下旬、久し振りに訪ねました。

案内されて、豊富な自然史資料の収蔵や「人と自然のかかわり」の学習活動の拠点となっていることを新ためて、身近に感じました。

玄関入口に近い事務室で、吉澤康輔館長さん、横道剛弘副館長さんから福井市自然史博物館の沿革や活動状況などを聴きました。

## 豊富な自然史資料・生涯学習の拠点

同館の前身は、昭和27年（1952）、福井復興博の第2会場の主要施設として建設され、博覧会終了後、「福井市立郷土博物館」として開設されてきました。平成4年には、創立40年目を迎え、福井市制百周年の記念事業として増改修工事と全面的展示替えが行われ、実態に即した新しい館名のもとに再スタートし、今日を迎えています。

同博物館の基本理念として、△足羽山という自然と一体化した博物館、△豊富な収蔵資料をバックに、さまざまな博物館活動を行う生涯学習の場、△郷土の自然史研究の中核施設、—と位置づけています。

ることに深い共感をおぼえました。横道副館長さんと梅田学芸員さんの案内で館内の主要設備などをみる事ができました。

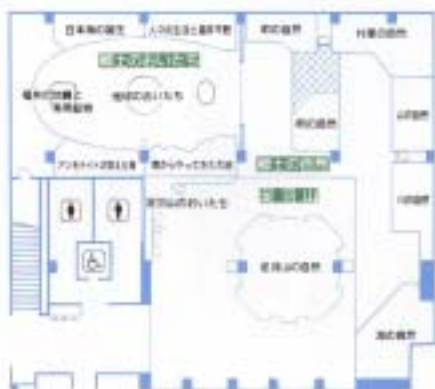


福井市自然史博物館正面外観＝福井市足羽上町147（足羽山）



特別展の会場で学芸員から説明を聞く小学生たち

### 常設展示室



鳥類や動物のはく製が保管されている収蔵庫

博物館の重要な役目の一つに、資料の収集・保管があります。

地階をはじめ5つの収蔵庫へ案内され、豊富な収蔵資料が保管されていることを知りました。

収蔵資料は、植物標本（59098点）昆虫（9105点）動物剥製（645点）動物液浸（9545点）貝類（78053点）化石（4861点）など合計17万6680点（平成16年4月現在）に及んでいました。

これらの資料はそれぞれにふさわしい方法で標本を作成し、保存処理を行い同定を行った後に、登録番号を付して、保管されています。

### 工夫をこらした常設展示



常設展示室入口に足羽山の大型模型を配置し、山の自然を解説

### 交通案内



### 足羽山コーナー

常設展示室は、1階のワン・フロアにまとめられ、人と自然のかかわりをテーマに、「足羽山」・「郷土のおいたち」・「郷土の自然」の3つのコーナーで構成されています。

まず、展示室入口では、足羽山の大型地形模型を中心に、足羽山の岩石、動植物の生態、ハイキングコースなど山の情報が検索できる装置や標本展示がホール

全館ご案内



郷土の自然コーナー



日本海側の山地の特色など「山の自然」を展示したコーナー

中央に設けられ、足羽山のあらしを知ることが出来ます。左側壁面には、足羽山がいつ頃、どのように孤立丘陵となったのかなど足羽山のおいたちがパネルで説明されています。

このコーナーでは、郷土の自然の現状を、都市化が進むにつれた「町の自然」、福井市近郊の農山村部の「村屋の自然」や「山の自然」、福井市の中心部を流れる足羽川を中心に「川の自然」、また、海岸部における「海の自然」をシーン毎にわけ、オープンジオラマでその姿を再現しています。豊かな自然を次の世代に引き継ぐために私たちが自然とどのように付き合っていけばよいかを提記しています。

郷土のおいたちコーナー



郷土の大地がどんな歴史をたどってきたかを紹介する「郷土のおいたち」コーナー

地球の歴史は約46億年といわれていますが、その長い間、地表の様子は絶えず変化してきました。福井の大地も例外ではありません。このコーナーでは、福井という郷土のおいたちを地球レベルでとらえ、地球の形成

から始まり、プレート・テクトニクス理論から福井地方の一部が南からやってきたこと、大陸とつながっていた時代、湖水域や内湾だった頃から現在の福井が出来るまでを残された化石や地層から推理し、郷土の地質学的全体像を表現し



岩石や化石から日本海の形成のかかりをさぐる「日本海の誕生」コーナー

ています。そのテーマを「地球のおいたち」「南からやってきた大地」「アンモナイトの栄えた海」「日本海の誕生」「人々の生活と福井平野」「福井の地質と有用鉱物」と並列し、各テーマをもとに段階的に解説しています。また、各所に化石、鉱物・古地磁気模型などの実物展示を行い、映像、コンピューター、グラフィックスを利用して、分かりやすい展示がされています。

旧館屋上に天文台



天文台に口径20センチ及び12・5センチの屈折望遠鏡と16センチ反射望遠鏡を配置

旧館建物の屋上には、博物館開館以来の天文台があり、五藤光学製の20センチおよび12・5センチ屈折望遠鏡、16センチ反射望遠鏡があります。年数回行う天体観望会行事や月例の天文教室などに、多くの市民や子供が訪れ、体験学習の実をあげています。

アドベンチャーシップ  
楽しんで冒険旅行！



大型画面の映像展示ゾーン

映像展示室(愛称「アドベンチャー・シップ」)では、楽しみながら子供たちに自然史全般に興味を抱けるよう、「宇宙」「自然」「歴史」の3編のオリジナルソフトが用意され、180インチの大型画面の迫力ある映像が体験できます。客席44席、グループで鑑賞できます。

特別展に深い関心  
福井発・生きものたちのSOS

特別展示室(旧館2階)では、「福井発・生きものたちのSOS」消えゆくふるさと動物たち」をテーマにした特別展が開かれています。絶滅時のニホンオオカミ、かつて福井の空を飛んでいたトキやコウノトリなどが展示され、多くの生きものたちが絶滅に追い込まれている現状と保全の必要性を理解するための催しものとして、訪れた小学生たちも真剣に学習していました。

# 由利公正

—小楠・龍馬とのかかわり—

(中)

文／歴史研究家 三上一夫氏



参与時代の由利公正

## 横井小楠との出会い

この際見逃してはならないのは、熊本藩士横井小楠の論議の強い影響を受けたことである。小楠は春嶽の招きにより安政五年（一八五八）四月、福井藩の政治顧問となり、藩政の枢機に参画することになった。

かれはすでに嘉永四年（一八五一）北九州・山陽道・畿内・東海道の二十余藩を巡歴したが、その間福井に一カ月近くとどまり、賓客の所遇をうけた。これが機縁となって、小楠の開明的で斬新な論議が福井藩士の間大きな影響を及ぼしたが、三岡も小楠の人物にすっかりほれ込んでしまった。

もともと小楠は藩専売制を厳しく批判し、熊本藩の蠟専売につき、結局は農工商はもちろん、武士を含めて藩全体が窮乏する皮肉な羽目に陥ったと厳しく非難する。そこでかれの富国論として、その著「國是三論」のなかで次の通り説いている。



横井小楠肖像  
(福井市立郷土歴史博物館所蔵)

三岡は、まさしくこのような小楠の構想を強力に実行に移したともいえるわけである。三岡は安政五年（一八五八）十二月、小楠の帰国に同行し、途中下関で

つまり一例をあげて、「二万金の銀鈔（藩札）をつくって民に貸して養蚕の資金にあて、その殖糸を官に収め、これを開港の地に輸出して洋商に売るならば、およそ一万千金の正金を得ることができ。つまり藩札が数月を経ずして正金となつて回収され、しかも千金の利があるというわけで、このような仕法を進めると、民間の生産も大いに振いたち、官府も年を追うて正金を高まることができ」という生産者に対する資金融通による積極的な殖産興業策を打ち出している。

物質集散状況や商取引の実情を調べた。翌六年一月には、熊本の小楠宅に向向き、約二カ月の滞在で、小楠の指導を受けるとともに、地域の諸物産の集散状況などを観察した。

さらに三岡は、同年三月長崎に行き、福井藩御用達小曾根乾堂のあつせんで、オランダ商館と国産生糸・醤油などの輸出の特約をした。



「三岡・横井の旅立ちの像」(左側：三岡)  
＝福井城跡・ポケットパーク(福井市大手2丁目)

## 三岡ら改革派の実践

小楠の開明的な「民富論」による殖産興業策は、福井藩切っ手の門弟三岡石五郎はじめ藩内改革派によって実践化される。

そこで「国産奨励」策にぜひ必要な会所は、三岡の「追想録」によると同年十月「物産総会所」の呼び名で福井城下の九十九橋北詰めに設け、会所の元締には、藩領内諸物産にかかわる在方・町方の豪農商層をあてるとした。

ところでこうした会所仕法の発定時期につき、三岡の「追想録」のほかに典拠資料が求められないことから、これらの内容そのものに疑義を見出し、他の関連資料により、約一年余りおくれた万延元年末ないし翌文久元年（一八六一）当初の会所発定とする見解が、近年來提起されている。

たしかに三岡の「追想録」には、一部本人の記憶違いによる年代・月日の誤りや、手柄めいた言い方が見られるため、十分な検討を要するが、かれのさまざまに目立った事績を明らかにするためには、かれの「追想録」はぜひ必要な文献と見なさなければならぬ。

実は三岡が追想する福井藩の会所仕法による貿易利潤がようやくピーク化する文久元年の段階で、福井藩在の横井小楠が熊本藩の親友にあてた手紙に記した「此問屋出来に因て、市在一統甚敷はげみ立、年の明暮杯は莫大にもち懸候て、勢甚よろしく御座候。(後略)」(同年正月四日付)と、この「問屋」(会所)ができたので、町・在を問わず生産者は大いに奮起し、年の明暮などには諸物産が大量に集積して、はなはだ活況を呼んでいる。元締たちは日夜「会所」に出勤して役人と協議し、すべて民間がたちゆくことだけを考え、「我家の事」つまり藩制のことは、一切忘れ去った格好である、と述べている。

こうした小楠の手紙の文脈からは、会所仕法が発定してからわずか一、二カ月というわけではなく、少なくとも一年ほどは経過する必要があると考えられる。したがって、信ぴょう性のきわめて高い小楠の手紙からみても、三岡のいう安政六年十月の会所発定には一応の整合性が認められる。

なにぶん安政六年六月から長崎貿易が許可され、しかも前述のとおり当時すでに三岡が、長崎でオランダ商館と生糸など販売の特約をした以上、少なくとも同年中に長崎貿易が推進されたとみられる。しかもこの際、長崎貿易ルートにつながる「国産奨励」に本格的に取り組むためには、諸物産の生産振興奨励・資金融通・集荷・販売などを行なう会所機構をぜひ発定させる必要があるわけで、たとえ三岡が説く「物産総会所」がかれ個人の呼称であったり、または公的な会所名がつけられなくても、実質的に「産物会所」としての機能をもつものと考えたいのである。

ちなみに、小楠が福井藩と同じくきわめて深くかわる筑後国柳川藩での会所仕法につき、基本的に福井藩と著しく類似する点から、その発定時期も、柳川藩

の安政六年末とほぼ共通するとみるのが、論理的に妥当だと考えられる。この点、まざれもなく小楠種彦論をふまえた会所仕法が、両藩の小楠門弟の改革派により用いられたからにはおかしくない。

## 坂本龍馬との劇的会談

慶応三年（一八六七）十一月二日、早くも冬の訪れを恐るはだ寒い日であった。



福井城下の山町（現、福井市両手1丁目）にあった長屋（たばこや）旅館跡

「もちろんごちからから靴いをいどむとはなくても、先方から仕掛けられたら逃れるのが」  
「いや、断じてそんなことはできない」と龍馬はきっぱりいい張る。  
「するといざという場合に備えなければならぬではないか」  
「実は困ったことに、新しい政府には財力蓄えもないし、また頼むに足る兵力もないのだ。君の得意の意見をわざわざ聞きにきた、ひとし話してくれないか」  
そこで三回は例の調子で、がっちりした腕を組んで、じつと考え込んだ。

「財力や兵力といっても、それは天下のものだ。いまや王政となつたからには、天下の財力・兵力を挙げて用いなければ



坂本龍馬像（筆者蔵）

や」では、坂本龍馬と三回八郎が、こたつに入って熱気をおびた議論をかわしている。  
龍馬は、すでに文久三年（一八六三）五月、勝海舟の命で福井を訪れたさい、小楠の紹介で三回宅をたずね、三人が夜を徹して会談したことがあった。そのため坂本と三回は、お互いに腹を割って話し合える仲だった。

「三回、すでに天下のことは決したよ」龍馬は慶応三年十月十四日の「大政奉還」の経過を「ま」と説明した。

「よくわかった。そこでこれからの計画はどうじゃ」  
と、三回が問い返す。

「まだ決めてはいないが、まず戦争だけはほしきくないよ」

ならない。そこでこの機会に産業資金を融通する道をひらいて、国を富ます政策を進めれば、かならずその成果が出てくるよ。それにはまず金札（太政官札）の発行だなあ。その手をつかかなければ天下の計画はできはしないよ」と、かつての福井藩での、藩札五万両の発行による殖産興業の成果をじゅんじゅんと説いた。これはいうまでもなく、同藩で実践済みの富国策を全国に適用しようとしたわけだ。

「よくわかったぞ、ぜひ新政府の台所を頼みたい」  
と、龍馬は真剣なまなざしで、三回の手を握りしめた。

以上は、三回の手記である。「坂本龍馬関係文書」の一節から、二人の劇的な会

談のまよを再現したものである。  
こうして、かれは龍馬の推挙によって維新政府に登用され、新政府の財政を一手に担うことになった。そして福井藩で一応成果を収めた財政策を全国レベルに適用し、特に金札の大量発行などにより、一年余にわたって新政府の財政的な危機をよく救ったといえる。

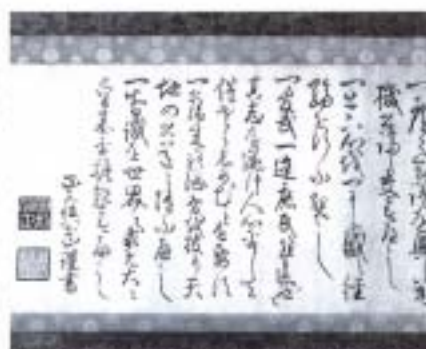
## 維新政治路線の憲章化

維新政府が慶応四年（一八六八）三月十四日、まさに政府軍の江戸城総攻撃に予定された期日の前日であったが、公表した「五か条の御誓文」は、維新政権の基本方針を明らかにしたものであるが、その宣言書の草案を最初につくったのが由利公正であったことは余りにも有名である。

実は福岡孝弟（土佐藩出身）が由利案の条文の順序や字句の一部を改め、さらに長州藩出身の木戸孝允が修正して発布されたものであるが、由利案の内容のほうは、はるかに国民的なエネルギーをでせるだけ発揮させて、新政の基礎にしようとする極めて開明的な発想といえる。

由利案の第一条の条文に「庶民志を遂げ」というのと、誓文の第三条の「官武一途庶民に至る」とでは、「庶民」のところが「庶民」でなく「士」か「民」とか、身分の差をこえて協力一致することが強調されているが、これが誓文第二条では、「上下心ヲ一ニシ」として、「上」と「下」の厳しい身分の差別を意図することがわかる。

さらに由利案の第五条の「万機公論に決し」は、誓文の第一条にかかげられるが、これこそ松平春嶽が幕閣の政事総裁職を担った文久期幕政改革のさい、横井小楠が建白した「国是七条」のなかの第五条「大いに言路を開き、天下と公共の



「由利公正第五カ条の御誓文」(水島直文氏蔵(福井市)、福井市立郷土歴史博物館寄託)

政をなせ」とまったく同じ趣旨である。

また福岡案や誓文のなかにはみられない由利案独自の「私に請するなかれ」は、かねてからの福井藩の幕政に対する鋭い批判と反省によるものとみてよい。同藩がたえずいましめたのは、「徳川御一家の便利私營」つまり幕府の「私政」であった。幕府は「私」のために開国し、尊攘派を弾圧した。また「私」のために攘夷決行や長州征伐など行ったことが、全国を政治的混乱におとし入れ、幕府自らをも破局の道へ追いやったというのである。

由利としても、幕府の「私政」は絶対に許されないと考えており、「天下の公論」を基礎とする新政こそ、もつとも望ましいものと考える。このような政治論と、幕末の福井藩が懸命にめざした「全国的統一国家」の基本構想でもあった。

いっぽう由利の盟友坂本龍馬の論議の影響をみのがすことができない。慶応三年（一八六七）六月、龍馬が長崎から上京する船中でまとめたとされる「船中八策」の第二条のなかの「万機よろしく公論に決すべきこと」は、いみじくも由利案の第五条に取り入れられている。そして不慮の最期を遂げた龍馬が求めてやまなかつた国政のビジョンが、「五か条の御誓文」のなかに見事に顕現化されたものといえよう。

(次号につづく)

# 平成16年度 風花随筆文学賞

風花随筆文学賞 授賞式



作家 津村節子さん（前列中央）を迎え表彰記念撮影  
—福井新聞社風の森ホール

最優秀賞

高校部

竹内さん（女子）

一般部

本間さん（道）

応募作品 過去最多 3879編

平成16年度「風花随筆文学賞」（同実行委員会主催、当財団特別協賛）の授賞式が3月6日、福井新聞社・風の森ホールで行われました。

同賞は、福井市出身の芥川賞作家、津村節子さんの随筆集「風花の街から」のタイトルを冠した文学賞で、平成9年度に創設、14年度から実行委員会形式に衣替えして発足、16年度で8回目となりました。

式には、選考委員長を務められた津村節子さんらから最優秀、優秀賞、佳

作に選ばれた17人に賞状、賞金などが贈られました。本年度は、国内外から一般の部1525編、高校生の部2354編、計3879編が寄せられ、過去最多の応募数を記録しました。

入賞の皆さんは次のとおり。（敬称略）

一般の部  
最優秀賞・福井県知事賞 本間素登（北海道）「円山八十八ヶ所」  
▼優秀賞・福井新聞社賞 西川聡（福井市）「初めての小遣い」  
▼優秀賞・仁愛女子短大賞 新海紀佐子（若手県）「面

影」  
▼優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞 小島瑞恵（大野市）「銭湯の牛乳」  
▼優秀賞・石神悦子（千早集）「風のような」  
▼優秀賞・鈴木治雄（神奈川県）「二枚の百円玉」

高校生の部

最優秀賞・福井県教育委員会賞 竹内幹恵（仁愛女子高校）「祖父の秘密」  
▼優秀賞・福井新聞社賞 田中綾乃（福岡工大附属城東高校）「勝負する」ということ」  
▼優秀賞・仁愛女子短大賞 矢代くるみ（神奈川清泉女子学院高校）「日神父様」  
▼優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞 午房翔子（高志高校）「じいちゃんの自転車にのってきた木」  
▼優秀賞 金森田朗（藤島高校）「独り」  
▼優秀賞・前田愛美（若狭高校）「無戦世代」

## 優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞作品紹介

我家の庭には、一風変わった木がある。いや木そのものは何の変哲もないのだが、家族間での呼び名が変なのだ。「じいちゃん」の自転車にのってきた木。その木は、仏間の縁側を覆うように茂っている。そして親せきの集まりがあると必ず、「じいちゃん」の自転車にのってきた木がこんなに大きくなってね。

「じいちゃん」の自転車にのってきた木が、という会話から始まり、曾祖父の思い出を語る伯母達。なぜこんな呼び名がついたかという説明を聞いたことはなかったが、いつの間にか私はこの木の存在について理解していった。五十年前私の祖母の生家から曾祖父が自転車の荷台にのせて六十キロ離れた祖母の嫁ぎ先へ運んで

曾祖父は、きつと体力、気力にあふれていたに違いない。いや、それ以上に、祖母、我娘に対して深い愛情を持っていたのだと思った。遠く離れた嫁家で生活する祖母。その祖母の思い、守ってやりた

い気持ちの奥に潜ませて、ペダルをこいだのさ。木よ、どうぞ娘を守って下さい。そんな曾祖父の叫びが聞えてくるようだった。親が子を思う愛情の深さが私の胸にひしひしと伝ってきた。しかし曾祖父は暖かく包み込む愛と同時に、生きる厳しさもこの木から教えてくれたのではないだろうかと感じるようになった。寒い冬を迎える時、葉を深く落とし、冬に立ち向かっていく姿。細い枝で雪を

学生時代は、銭湯で風呂上がり牛乳を買って飲むのが楽しかった。結婚してからは縁遠くなっていったが、子供と一緒に銭湯の牛乳を飲んだことが一度だけある。冷たくてちょっと悲しい味だった。

東京に単身赴任をしていた夫を子供達と一緒に初めて訪ねた時のことである。夫のアパートには風呂がなかった。そこで、私達は子供達を連れて近くの銭湯に出かけた。息子と四歳、娘は三歳だった。池袋。飲み屋が軒を連ね、外国人女性

「お嬢ちゃん、お名前は」  
「りか、お兄ちゃんはゆうすけ」  
娘は元気よく答え、女はうなずいて脱衣所の方に去って行った。  
静まり返っていた風呂場に、女達の話し声が高かった。

「まだ若いのに入れ湯だよ」  
「平気で風呂に来るなんて」  
「内風呂のあるところに住みゃあいいのに」  
「どうせ旦那に捨てられたんだろ」  
みんなが一斉に笑いささめく。  
私は手早く入浴を済ませ、子供達の手を引いて風呂場を出た。何よりも子供達に女達の意地悪な言葉を聞かせたくな



きた。荷台にのるのだから、三十センチ程の苗木だったそう。子育てにおわっていた祖母は庭の隅に植えられたこの木について全く記憶がなかったという。家の増築で何度か植えかえられたが、枯れることもなく大きく生長し枝もどんどん生長し今では、家の中心となる仏間をしつかり守るように生き続けている。それは、他家へ嫁いだ祖母を心配し、自分の代わりとなって祖母を見守り続けてほし

## 高生部校の



### じいちゃんの自転車にのってきた木

高志高校 午房 翔子

いという曾祖父の祈りのようにも感じた。この木にまつわる思い出は多くある。春、幼稚園から戻り、父母の留守の寂しさを忘れるためこの木に登り、祖母を驚かせたこと、そしてこの木の葉がますます緑を増した夏、いっばいに広がる枝のすき間から青空をのぞき見たこと。海水浴の疲れを癒すため仏間に従兄弟たちと寄り込んだ私は、涼風に触れながらこれ合

縁がれてきたものがある。しかしもう一方で、私にはこの目の前に存在する。曾祖父から受け継がれてきたこの木から今を生きる自分を感じることが出来る。曾祖父、祖母、母、伯母たちが共有してきたこの木から、自分の存在価値を今改めてかみしめることができ、また、生きるということを真剣に見つめることができるように思う。

う葉の響きを楽しんだ。秋には、真っ赤な小さい実をつけ、野鳥が「キー」と鳴き声をあげながらそれを食べる様子を祖母と仏間の隙から見たものだ。冬を迎える前、その木は、あつという間に葉を落とす。その頃の庭木は冬を迎えるために雪つりをするので、今までその木が雪つりをした姿を見たことはない。繊細に四方に張った枝は厳しい冬を自分で越えるのだ。雪を自分の枝で受けとめて、じつと春を待つ「じいちゃんの木」を私は十六年間見守ってきた。

私はこの木から一度も会ったことのない曾祖父の姿を見つけた。六十牛口も離れたこの家まで自転車で運んだ

しつかり支える姿。豪雪で枝が何本も折れたこともあった。しかしそんな痛手をいつの間にか克服し、今まで以上に勇ましい木に生長していった。曾祖父はずで私の前にはいない。しかし、この木を見ているだけで、人としての在り方、生き方が伝ってくる。人間は、DNAにより何万分の一の自分を子孫に残すことができる。私の中にも、曾祖父から祖母へ、祖母から母へ、そして母から私へと受け

私が大人になり、この家を巣立つ時、私はこの木の存在を心に深く刻み込んでおきたい。そして私のDNAを受け継いでいく子孫にも、この木の存在を受け継いでいきたい。祖母や母と同じように、語り継ぐ私の役割を履行することにより、私は曾祖父と生き方を共有できるのではないだろうか。そしてまさにその時こそ、初めて自分の生き方を省み、誇りをもつことができるのではないだろうか。

店のチラシを渡しかねている。何も知らない子供達は、初めて見る夜の街の華やかさにはしゃいでいた。

銭湯に着き、私と子供達は夫と分かれて女風呂に入った。脱衣所ではないかにも下町の女達が、タバコを吸いながら大声で笑ったり、真っ裸で扇風機の風に当たっていたりしている。

風呂場に入ると、混んでいて洗い場が空いていなかった。私達は立ったまま待つしかなかった。それだけの混雑にもかかわらず、湯船には若い女が一人だけつかっているだけで、他の女達は何か彼女を遠巻きにしているようだった。話し声一つ聞こえず、みんな黙々と体を洗っている。

湯船から上がった女を見て、ようやく理由が分かった。女の背中から腰にかけて大きな彫り物があったのだ。輪郭だけでなく色の入っていない観音像である。

女は洗い場の片隅で体を洗い始めた。すると、隣の女が聲を立ち、その隣の女も席を立った。順番を待っていた私達は、必然的に入れ墨の女の隣に座ることになった。娘の体を洗ってやっている時、娘は突然女に話しかけた。

「お姉ちゃん、お背中に字を書きましたら、お母さんにしかられるよ。」

慌てて止めようとしたが、もう遅かった。髪を洗っていた女は驚いて振り向き、娘を見た。荒れた肌の、美しいとは言えない顔だった。女はふっと笑って言った。

「そうね。お母さんにしかられるわね。」

そして、女は娘に聞いた。

## 一般部



### 銭湯の牛乳

大野市 小島 瑞恵

女は「いいのいいの」という風に手を振って出て行くとした。すると、娘が大声で声をかけた。

「お姉ちゃん、ありがどう。」

女は嬉しそうに振り返って笑った。

あれから十年が過ぎ、娘はもう知らない人に気軽に声をかけることはしなくなり、銭湯で牛乳をもらったことなどすっかり忘れてしまった。そして、入れ墨は「タトゥー」と呼ばれるようになった。銭湯で「入れ墨お断り」の張り紙を見ても、自分のタトゥーを気にする人はいないだろう。他の人たちも眉をひそめはしても昔のようにおおっぴらに非難はしないのではないか。

あの女の背中の観音様は完成したのだろうか。女の背中で何を見、どんな顔をしているのか。それは、あの時の女の、泣き出しそうな笑顔に似ているのだろうか。

牛乳を飲むとき、ふと考えることがある。

向こうからさっきの女がやってきた。両手に牛乳を二本抱えている。

「りかちゃん、ママとおにいちゃんと一緒に飲んでね。」

女は牛乳を差し出した。子供達は大喜びで、私はとまどいながら、それぞれ牛乳を受け取った。私は努めて明るく言った。

「すみません。ありがどうございます。」

平成16年2月、国の重要無形民俗文化財に指定された伝統芸能「仏舞」が4月16日から18日までの3日間、福井市糸崎町の糸崎寺観音堂で厳かに奉納されました。今年も33年に一度の同寺本尊・十一面千手観音像の本開扉に当たり、大勢の参拝者らが訪れ、優雅で、幻想的な舞遊気をつくりあげました。18日の縁日、隔年毎に奉納される仏舞を取材しました。

## 仏舞の由来と伝説

青王山龍華院糸崎寺に伝わる仏舞の「縁起書」によれば、糸崎寺は養老年間(719)聖徳大師によって開山されたといわれています。その後、天平勝宝8年(756)、中国青王山の高僧禪海上人が

来朝し、たまたま舟で糸崎の浦を通ったとき、糸崎の山容が青王山に酷似している景勝に大変喜ばれ、この地に僧坊をつくって仏法興隆の修業を積まれたという。ある日、免魔の浜で海の中に奇光がみられ、漁民があやしんで網を入れると、引けども引けども揚げる事ができません。上人は、7日7夜祈願して網を引いたと



仏舞奉納でにぎわう糸崎寺本堂



33年振り開扉の千手観音菩薩像

ころ、不思議なことに守り本尊である千手観音菩薩が大龜に乗り、現われました。上人は、菩薩を観音堂に安置し、糸崎寺の本尊とされました。この時、天地が忽然として大光明を放ち、諸々の菩薩や天女が紫雲に乗って庭に降り、共に舞いに合流し、喜びの舞を始めたという。この奇蹟が仏舞という姿に変わり、以来この地に伝えられたといわれています。

## 奉納は石造りの舞台

奉納は本堂の前に設けられた約5畳四方の石造りの舞台で行われます。舞は、本堂から舞台までの間に設けられた石造りの花道を出るところから始められます。舞台の奥側には、奥行き約3畳の石舞台が別に設けられ、西側の区画に楽人が座り、中央には住職が曲るくに腰を下ろします。舞台の北側の横に石造りの高いやぐらが設けられており、その上で太鼓と鉦の演奏者2人が舞手の拍子をとる発信の座となります。



御詠歌を口ずさみしらずと  
舞台へ向かう送礼姿の一行



## 可愛い巡礼姿で御詠歌

4月18日は千手観音菩薩の縁日、午前中から町民や信者による祈願が本堂で随時行われます。午後2時、本堂で住職の読経が始まり、それが終ると本堂から、子供、大人も加わった女性10数人が着物を白足袋、白掛袴、白の袴子を着け、頭に笠笠をかぶり、華屋はきで、鈴を鳴らし「なあーむや大慈の觀世音」と御詠歌を口ずさみながら、しししすと舞台に向って歩いて行きます。



石舞台で本堂に向かい「花和讃」を  
唄い御詠歌を奉納

り、小楯で鉦をたたきながら、調子をとって御詠歌の「花和讃」を一段と高く唄いあげます。

御詠歌の奉納が終り、本堂へ引きあげると、半鐘が耳をつんざくように鳴らされ、それが合図となって本堂の奥の方から「越天楽」の雅楽の唄が伝わり、笙、横笛、ひちりきを奏する楽人達がしししすと本堂から姿をあらわし、舞台へと進んで行きます。すぐその前には、太い黒



本堂から舞台に向け、雅楽を奏して進む楽人達



角守り、念菩薩がしずしずと舞台へ

## 楽人・舞仏花道を行進

塗りの杖を持つ羽織袴の年配の人が先導し、傘持ちを従えた住職が紫の法衣に金色の袈裟を着けて舞台へと向います。

楽人達の後には、白の法衣に白の袴を着け、頭には璽珞のある天冠をのせ、頭に白い重面を付けた「角守り」(小学低学年の男子)2人が続き、その後には、青色の法衣と袴を着け、頭には烏帽子、金色の菩薩面をつけた「念菩薩」(小学高学年の男子)2人、そして、8人の舞仏が続き、全員が黒頭巾で頭を包み金色の菩薩の面をつけ、黒の法衣をまとい、その上に袈裟をかけ、手仏4人の頭には璽珞のついた天冠をのせ、打鼓仏2人と撥仏2人の頭には輪棒宝冠をつけ、手にした持物を前面にかかげ、手仏は合掌しながら一列になつて、すり足で舞台へ向います。舞台に着くと角守りと念菩薩は四隅にひかえ、舞仏は南北に4人ずつ整列します。

## 仏舞は3部構成

石のやくらの上に座った舞楽手が太鼓と鉦を打ち鳴らすと、舞台では円陣をつくって仏舞が始まります。舞は3部構成になっており、総て太鼓と鉦のテンポや変化によって、一番、二番、三番太鼓と区別されます。

一番太鼓の舞は、舞楽手が太鼓の縁を両手のぼちでカーン、カーンと叩き始めると共に舞が始まり、7回目に太鼓の中央を片方ずつドーン、ドンと大きく叩かれ、この拍子に合わせて、体を上下にゆつ

二番太鼓の舞は、チンカン、チンカンと片方ずつぼちで太鼓の縁を2回叩き、3回目にドーン、ドンと太鼓の中央が叩かれます。それに合わせて、一番の舞と違った動作で、左右に身を振り、手を前に、足をかがめながら舞台中央に集ったり、離れたりしながら、全体に右回りに一周します。

二番太鼓の舞が終わると同時に楽人による雅楽が奏でられます。舞仏は舞台の南北に4人ずつ整列。次に、太鼓と鉦の合図で、舞台の隅ですつと合掌していた念菩薩の2人は、中央に歩き始め、本堂に向かって置かれた教机の前で二礼します。

## 黄金の面をつけ、太鼓に合わせ優雅な舞

次に片ひざを立て中腰に座り、分ち合った黄金製ハスの花を机の上に捧げ、本堂に向かって深く二礼します。この仕草は大切な物を分け与えて喜びを互いが分ち合うという表現で、念菩薩の舞といわれています。

三番太鼓の舞は、舞仏が再び舞台の中央に円陣をつくり、太鼓の中央のみをドーン、ドンドンと強弱を織り混ぜて叩かれ、その拍子に合わせて舞が行われます。



ゆったりと円陣で体を揺らし舞う。一番太鼓の舞

たりと揺らし、手を前に振り、舞台の前へ集まったりしながら右回りに一周、無言の優雅な舞が続けられます。



本堂に向けて教机にハスの花を捧げる念菩薩の舞

8人の舞仏が舞いながら一周することになり、手仏から1人ずつ舞を抜けていきます。次に打鼓仏、撥仏と、最後には撥仏が1人になって舞いを続けませんが、それも終ると本堂に向かって一礼してから元の位置に並び、仏舞の奉納が終了します。この最後まで1人で舞った舞仏を「舞い残り」と言い、舞いの練達した人があたることになっていきます。



8人の舞仏が舞台を1周することに1人ずつ舞を抜けていく3番太鼓の舞

## 保存会あげ、民俗文化を継承

糸崎町は戸数44戸。人口140人の小集落。

仏舞を奉納する舞人は、奉納の前夜7日間、酒色を断って精進し、寺の塩風呂に入つて身を清めてから衣装を着けます。これは舞仏となるための儀式ともなっています。舞人は糸崎町の住人で、かつては観音堂の近くの清水を産湯に使った長男に限られていました。現在では産湯については今も守られており、糸崎の水を出産時にわざわざ病院まで運ぶというところで、伝統ある民俗文化を保存継承しようと保存会あげて、伝承機運を高めています。

日下部太郎とW・E・グリフィス

慶応3年(1867)、福井藩最初の渡米留学生となり、学問追求の志を抱きながら異国の地で病没した日下部太郎。彼の志を継承し、はるばる福井の地を踏み、文明開化の先導を青年達に担ったウィリアム・エリオット・グリフィス博士。その悲劇と友情の絆を刻した銅影碑が、福井市立図書館(同市文京2丁目)西隣り公園の一角に建てられています。

この碑は、昭和51年(1976)11月、社団法人、福井青年会議所が建立したものです。碑の中央部には、日下部の恩師、藩儒吉田東原が残した「墮涙碑文」が銅板に刻まれ、向って右側に日下部太郎、左側にW・E・グリフィス博士の肖像がレリーフされ、台面には、2人が福井の文化の発展と、日



日下部・グリフィス銅影碑 (福井市文京2丁目・福井市立図書館西隣り公園)

墮涙碑

福井藩最初の渡米留学生となり、学問追求の志を抱きながら異国の地で病没した日下部太郎。彼の志を継承し、はるばる福井の地を踏み、文明開化の先導を青年達に担ったウィリアム・エリオット・グリフィス博士。その悲劇と友情の絆を刻した銅影碑が、福井市立図書館(同市文京2丁目)西隣り公園の一角に建てられています。



ウィリアム・エリオット  
グリフィス博士



日下部太郎

二人の友情と偉業、日米友好の絆に

うと計画。その文章を吉田東原に依頼しましたが実現せず、原本だけが残りしました。「墮涙碑」碑文原本は、現在、福井市立郷土歴史博物館に展示されています。「墮涙」とは涙がこぼれ落ちるという意味です。

日下部太郎は、弘化2年(1845)7月10日、福井城下江戸町に、福井藩士八木郡右衛門の長男として生まれました。幼時から船学に励み、俊才ぶりを発揮し、多くの人々から賞賛されました。慶応元年(1865)9月、藩命により英学修業のため長崎に遊学、幕府の洋学所済美館に入り、米人宣教師フルベッキに就いて語学や数学を学びます。翌2年5月、海外遊航の禁が解かれ、福井藩派遣の渡米留学生に選ばれ、翌3年3月、長崎を出航し、7月米国、ニューブランズウィック市に

米友好関係の礎石となった偉業を称える碑文が向って左に日本語、右側に英語で刻まれています。日下部太郎が亡くなった後、父親の郡右衛門は、菩提寺である清円寺(室永4丁目)の境内に息子子の碑を建てよ

到着。太郎は、同市のラトガース大学に入学を認められ、日夜、勉学に励みました。大学での太郎の熱心な勉学態度をみ、たグリフィスは日本人の節度、勤勉さ

墮涙碑原本 (福井市立郷土歴史博物館保管)



日下部太郎とW・E・グリフィス像  
=福井市中央3丁目14、幸橋北詰

に心を動かされました。このことが後年グリフィスが福井に赴任する機縁となりました。博士は、明治4年(1871)3月、太郎が学んだ明道館(明新館)で、近代科学を教えることになりました。大学時代の日下部は外国人としてのハンディキャップをよく克服し、クラスでは常に首席で通しました。しかし、明治3年4月、過労がもつと、肺結核におかされ、卒業を目前にしながらか26歳という若さで帰らぬ人となってしま

いました。ラトガース大学は、その死を惜しみ卒業生名簿にその名前を加えました。さらに首席卒業生だけに贈られるファイ・ベーター・カップ協会の金銀を贈り、その生涯を称えました。なお、この「かざ」は彼の遺髪とともに、翌4年のグリフィスの来福のさい、父親郡右衛門に手渡されました。日下部太郎とグリフィスの友情をきっかけに、福井青年会議所の熱心な働きかけもあって、福井市とニューブランズウィック市との間で、昭和57年(1982)5月、姉妹都市が締結され、日米友好、交流の絆が深められています。

# 敦賀市立博物館 誌上ギャラリー／16

敦賀市立博物館では郷土にゆかりのある作家や師弟関係などでつながる近世・近代絵画を系統的に収集しています。

- 絹本着色
- 縦 165.7 横 99.7cm
- 江戸後期
- 落款 蔵人所衆従五位下  
式部少丞菅原朝臣為恭
- 印章「菅」朱文方印

## 解 説

本図は、全面に雲母（光沢のある鉱物で下塗りなどに使われる）が引かれ、紺青の「すやり霞」によってほぼ横3段に区切られています。

上段は、様々な種類の草を互いに出し合って優劣を争しむ「草合」の一団や、鼓や鉦を鳴らす童女達で構成されています。中段は、2人の獅子舞と田楽太鼓で囃す人物などをはじめ、ひもでつないだ2本の棒で駒を操る奇術師や馬長行列（祇園の御霊会の神事に馬に乗り、東帯姿などで参加する人物）などが登場します。

下段は、大鬘髻を先頭に、風流笠をかぶり十二単に衣裳を着て馬に乗る女房や、烏帽子、狩衣姿の人物による行列がつづ

き、また馬上田楽団で、反身になって田楽太鼓を打つ曲芸的な動作をする者などの一団が興味をひきます。

明治時代になって「三祭図」と題されたのは、上段は夜須礼祭、中段は城南祭、下段は祇園祭とする説に拠っています。しかし、これを原典の「年中行事絵巻」に照らすと、上・中段とも神社や祭礼の場面はなく、これに対する下段は祇園祭そのものの場面があるので「三祭図」の名称はそのままとし、副題として「祇園祭礼図」とすることにしました。

このように為恭は、神事そのものを採り上げるのではなく、祭礼に参集した群衆の姿態を対象としたところに本図の特

色が認められます。

筆者の冷泉為恭は、文政6年（1823）京野野家の共同水春の3男として生まれ、幼年から我が国伝統の大和絵にひかれ、20歳頃までに、「伴大納言絵巻」や「法然上人絵伝」など、わが国伝統の絵巻物のほとんどを模写した程の努力家です。

本図は落款にみる官位から、為恭の晩年に属する36歳から40歳頃までの作品と判ります。

この為恭の属する画派は、復古大和絵派と称され、我が国の絵画史上において重要な地位を占めています。

## 三祭図（祇園祭礼図） 一幅 冷泉為恭筆



# 平成17年度財団助成事業

助成総額 **2212万円・117団体**

県内の文化団体等の事業活動を支援する平成17年度の財団助成事業は、4月末日で公募申請を締め切り、4月5日と5月12日の2回に分け、選考委員会を開催し、慎重な審議を行いました。その結果の答申をうけて、本年度は、117団体に対し、総額2212万円の助成交付金を決定しました。助成対象事業別の交付決定額は、下表のとおり。昨年度に比べ、9団体、助成総額では115万円増えました。

## 平成17年度 財団助成事業交付金一覧

事業大別	助成対象事業	団体数	助成交付額
地域文化の振興事業	郷土の歴史・文化の保存伝承事業	17	2,800 <small>(万円)</small>
	市民文化団体等の活動事業	29	5,400
	国際文化交流事業	4	700
	文化アドバイザー派遣事業	1	1,000
	文化のまちづくり事業	19	3,290
ふれあい及びゆとりの創造事業	ボランティア団体等活動事業	13	1,360
	各種文化サークル活動事業	17	1,670
	環境保全等地域づくり事業	5	700
芸術鑑賞機会の提供及び文化創造事業	優れた芸術公演・展示開催事業	5	1,700
	市民参加型芸術文化活動事業	6	1,500
福井県高等学校総合文化祭育成事業		1	2,000
合計		117	22,120



アンコールに応じて「旅立ちのうた」を歌い上げる和田アキ子さん＝福井市・フェニックスプラザ

## 和田アキ子 WITH YOU

ふれんでい

コンサート2005

6/18

福井

財団では「和田アキ子・WITH YOU」と銘打ち、ふれんでいふれあいコンサート（日本原電協賛、福井放送後援）を6月18日、福井市のフェニックスプラザで開催しました。

当日は、長い若さを誇る和田アキ子さんの出演とあって、会場には約2千人のファンが詰めかけ、ユニークなトークを折りませ、はげしい美声に、会場を

沸かせました。彼女の頭文字をとったA・Wを舞台にセット、カクテル光線に彩られたステージにジャズ音楽「EMERGENCY」に乗ってスタート。「どしゃぶりの雨の中で」など4曲がメドレーで次々と披露されました。

福井へ10年振りに来たことや「健康長寿・全国2位」の福井の良さなどをトークに取り入れ、バンドマンのマイク・ネルソンさんと「越前かに」を英語で紹介。2人で「SOUL MAN」を歌って踊りで披露し、大きな拍手を浴びました。後半は、ブルース調の「夢」などを、最後に「今あなたに歌いたい」をマイクなしで歌い上げ、アンコールに応じて、「旅立ちのうた」を会場の手拍子に乗って歌い、フィナーレを飾りました。

## 「一人前」の条件を語る

教育短大



「一人前」の基調講演をする大槻宏樹名誉教授

「若州良民伝」に学ぶ」フォーラム（若狭路文化研究会主催、当財団共催）が6月19日、敦賀市の敦賀短期大学で開催されました。この企画は、同研究会と財団が共同発刊した「若州良民伝」を復刻させたのにちなんで開催したもので、地方史愛好者ら約40人が参加しました。

## 「若州良民伝」に学ぶ

発刊記念フォーラム

6/19

続いて地域の共同体が衰退する前の日本では、若者が15歳になれば、「若者組」に所属し、身分の高低に関係なく平等に、一人前になったとの見方を示しました。

近代以降は、「教育制度が整う

につれ、一人前の条件について答えがなくなり、これを補うための世代間の教育の意義を考えていくべきだ」と強調されていました。

フォーラムは、多田仁一（東京都・高校教諭）、築山桂（作家）、中島辰男（前県立若狭歴史民俗資料館長）、前川正名（大阪大助手代理）の各氏がパネラーに、多仁照廣氏（敦賀短大教授）が司会して進められました。

それぞれの立場から、江戸時代、幕府や藩が庶民教化政策の一環として、忠孝・節婦・善行・奇特などの徳目について、現代の教育事情に接点があるのか、事例をあげながら、現代教育の難しさを含めた意見や解説がなされ、意義ある討論となりました。



熱の入った発言で盛り上がったフォーラム

## 県観世能楽会30周年記念大会 6/12

### 京都観世会一門「天鼓」を上演 福井

福井県観世能楽会の30周年を記念する能楽大会（当財団共催）が、6月12日、福井能楽堂（福井市民福祉会館内）で盛大に開かれました。

同日午前9時から、福井幽園会会員による「鶴亀」の素話が始まり、県内支部など会員が、日頃研鑽した曲目を地謡や囃子方で次々と披露し、鑑賞に訪れた愛好者らから大きな拍手が送られていました。

午後3時過ぎからは、京都観世会一門による記念公演が行われ、大会を盛り上げました。はじめに、観世流能役者・片山清司さんが、「能」への理解を深める新しい取り組みとしてアニメーションの絵本「天鼓」の物語を演出して脚光を浴びました。



京都観世会能楽「天鼓」を上演＝福井能楽堂

昔、中国の老夫婦が授かった天鼓少年の人々の心を打つ美しい鼓の音をめぐる悲劇と甲斐の物語を描いた能楽「天鼓」が見事に上演され、同会創立30周年の記念大会にふさわしい華やかな舞台を飾りました。

## ニュー ヨーク ジャズコレクション2005 6/10

### 本場のピアニスト 名曲披露 福井



第1棟経の本場ジャズの調べを披露＝福井市曹のホール

福井まちなか文化施設「響の水」ル開設1周年を記念した「ニューヨーク ジャズ コレクション2005」（まちづくり福井財団主催・当財団協賛）が6月10日夜、同ホールで開催されました。

米国ニューヨーク・ジャズ界を代表するピアニスト、リニー・ロスネスさんとベース奏者レイ・ドラモンドさんを招き、ライブハウス気分の楽しい雰囲気の中で、本場第1線級のモダンジャズの調べは、集った約200人余の観客を魅了しました。

コンサート第一部では「In Your Own Sweet Way」で幕開け。「スター・アイズ」をはじめ6曲を披露。第二部では、名曲「フロードウェイ」などを次々と演奏。繊細で美しいピアノの調べ、時にはダイナミックなスイングを響かせ、ベースの低音で濃厚な魅力を与えたデュエットに会場を沸かせました。

最後に「Take the A Train」をバフフルに、ジャズの真髄を響かせ、フィナーレを飾りました。

## 清水国明氏招き文化講演会 7/2

財団では、県連合婦人会と共催（日本児童協賛）して、本県出身のタレントで、自然暮らしの会の代表として活躍しておられる清水国明氏を講師に招き、7月2日、福井市の県生活学習館で「子育てが楽しくなる提案」と題して文化講演会を開きました。

会場には、地域婦人会の会員ら約500人が参加。清水さんは、自分の家庭における子育ての経験などをジェスチャーを交えながら「子育ての基本は、自然から離れない生き方が大切。」と語り、「今の社会は、もっと便利で、もっと快適であることを求めているが、本当に人間らしく生きるためには、自然にかえることが原点だ。」と訴えていました。また「最近の子供たちは、

### 子育ては自然の感動の中で

福井



自然共生の人生を提言する清水国明氏

テレビゲームなど画面をみて、閉じこもって育っている。これでは心と体に障害を生む。自然の中で、本物を経験し、自ら体を使い、感動を得る喜びを知ろう。親は、子供への目線で、「自然なライフスタイルで人生を楽しもう」と提言していました。

## 松原正樹スペシャルライブ 6/25



松原さんの内熱のギターで熱唱する山本潤子さん

### ポピュラー 山本潤子さん

### 美声を披露

福井

武生市出身のギタリスト、松原正樹さんのスペシャルライブ（まちづくり福井（株）、福井テレビ主催、当財団協賛）が6月25日夜、福井市の「響の水」ホールで開催されました。今回のライブには、元ハイ・ファイ・セットのボーカル、山本潤子さんをゲストに迎えるなどエレキギターを中心に、卓越した演奏を披露しました。

コンサートは、松原さんをリーダーに、ギター、ベース、ドラム、キーボードの5人で構成するバンドで、ロック・ミュージック「Eye Star」で幕開け。「スピニングホール」など6曲を次々とバフフルなサウンドを響かせました。後半は、松原さん作曲「ヒューマン・リレーション」など内熱のテクニクで1曲を演奏披露。途中、ゲストの山本さんが登場し、「卒業写真」「スカイレストラン」など美しい声で熱唱、フィナーレは、「翼を下さい」の名曲を熱演して会場を魅了しました。

第20回国民文化祭・ふくい2005協賛事業

第8回 2005写真コンテスト

## ふるさと大賞

作品  
募集



第7回ふるさと大賞作品「楽しいなあー紙の部屋さん」  
（飯沼千代子（飯沼節子））

### テーマ 「ふるさとの祭りと譜」

- |        |     |  |
|--------|-----|--|
| ふるさと大賞 | 1点  | 賞状・トロフィー・賞金30万円<br><small>※入賞・落選の両方ともは、賞状とトロフィーのみです。</small> |
| ふるさと賞  | 3点  | 賞状・トロフィー・賞金<br><small>学生：5,000円（1点）一般：10,000円（3点）</small>    |
| 優秀賞    | 5点  | 賞状・トロフィー・賞金<br><small>学生：5,000円（1点）一般：10,000円（5点）</small>    |
| 入選     | 30点 | 記念品<br><small>学生：500円（1点）一般：1,000円（30点）</small>              |
| 佳作     | 30点 | 記念品<br><small>学生：500円（1点）一般：1,000円（30点）</small>              |

大賞賞金  
30万円

主催：(財)げんでんふれあい福井財団

後援：福井県／福井県教育委員会／敦賀市／敦賀市教育委員会／(社)福井県文化協議会

福井県高等学校文化連盟／(株)福井新聞社／福井放送(株)

福井テレビジョン放送(株)

協賛：福井県カメラ商組合／富士写真フイルム(株)／フジカラー北陸(株)

## 募集要項

- テーマ 「ふるさとの祭りと譜(うた)」
- 部門 学生部門(高校生以上)・一般部門の2部門  
※今回から女性の部門を一般部門に統合しました。
- 資格 ①福井県に在住又は、学校・勤務先が福井県内であること。  
②写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと。
- 作品 応募点数は制限しません。ただし応募者本人が県内で撮影された未発表作品に限ります。
- 作品の規格 カラー・モノクロで四つ切、又は四つ切Wの単写真のみとします。
- 締切 平成17年12月9日(当日消印有効)
- 発表 平成18年1月下旬 ※入賞者にはご連絡いたします。  
審査委員長/八木隆氏(写真家)他6名
- 応募先及びお問い合わせ先 ①914-0051 福井県敦賀市本町2丁目9番16号  
(財)げんでんふれあい福井財団  
☎(0770)21-0291 <http://www.genden.or.jp>  
②福井県カメラ商組合店及び県内フジカラー取扱店
- 応募方法 所定の専用応募用紙に必要事項を記入し作品の裏に、セロテープで貼って提出してください。
- 表彰・展示会 表彰式/平成18年2月7日(天)〈ふるさとの日〉  
入賞作品は、敦賀・福井市2会場で写真展を開催し、作品を広く県民の皆さんに公開します。
- その他 ①2003年～2005年に撮影したもので、自作の未発表作品に限ります。  
②同一または類似作品などの二重応募は禁止します。判別した場合は、入賞を取り消します。  
③デジタルカメラの作品は不可とします。  
④入賞者には、原像(ネガ・ポジ等)の提出を求めます。  
⑤応募作品は返却しません。但し、返却を希望される方は「返却希望」と封筒に未着せし、500円切手を同封して下さい。  
⑥入賞、入賞作品の使用・著作権は主催者に帰属し、財団のPR活動等に使用させていただきます。

## 財団イベント INFORMATION

げんでんふれあいコンサート 2005	河村隆一コンサート	10/7(金)	敦賀市民文化センター	入場料 2,000円
海・山・音楽 福井ロックフェスティバル05	福井出身のアーティスト出演	10/16(日)	福井市・「響のホール」	FM福井主催・財団協賛 入場料2,500円(予定)
第9回福祉演芸会	千田やすし(團話術) 林田麻友子(歌手)	10/18(火)～20(木)	県内6福祉施設	無料
国宝級茶室 「起こし絵図」展	10/20 福井工大名誉教授 中村昌生先生記念講演	10/20(木)～23(日)	福井新聞社屋の森ホール	財団共催
日本歌曲とオペラ アリアの夕べ	林康子と吉田浩之共演	10/27(木)	福井市 ハーモニーホールふくい	福井県文化振興事業団主催 財団協賛 入場料4,000円
狂言を楽しむ会	人間国宝 茂山千作師一門	11/4(金)	敦賀市・プラザ萬象	無料
文化講演会	講師 桑原征平氏 「大爆笑!征平の挑戦!」	11/12(土)	敦賀市・プラザ萬象	敦賀市連合婦人会と共催

